リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立
市民活動
センター
リードあしや

記事
兵庫県立
芦屋高等学校

命守る、行政の責務

高島市長　災害時の発信力強化を検討

防災、環境、人口流出…。山積する課題に高島崚輔・芦屋市長はどう取り組むのか。インタビュー第2弾は、その考えに迫る。

◇　◇

―近年災害が多発しています。防災についての考えを教えてください。

「市役所最大の仕事は、市民の命と安全と財産を守ること。防災はとても重要です。避難訓練をしたり、避難計画をつくったりすることも大事だけれど、災害時に生かせなかったら意味がない。いざという時に司令塔になって、情報をきちんと届けることも大事です。災害時、市がテレビのテロップで情報を流せる体制は整えていますが、インターネットでの届け方は工夫が必要です。伝え方を考えていきます」

―芦屋市はゼロカーボンシティーを掲げています。

「2050年までに二酸化炭素排出量を差し引きゼロにする、という考え方です。芦屋市民の生活で最も二酸化炭素を排出しているのは、実は発電です。火力発電が多いからです。公共施設に太陽光パネルをつけるなどの取り組みを進めていますが、劇的に改善は難しくて、地道な積み重ねですね。2050年まであと27年しかない。研究者や専門家とも一緒に考えなきゃなと思ってます」

若い時の体験豊かに

いつか帰ってきたい芦屋へ

―高校、大学卒業のタイミングで芦屋を離れてしまう若者も多いと感じます。

「個人的には、仕方がないことだと思っています。芦屋市の場合でいえば、就職のタイミングでほかのまちに移り住む方も多いです。それは、個人の人生の意思決定として無理やり止めるべきではないと思っています」

「むしろ子育てをするタイミングや、家を建てたり、仕事が落ち着いたりするタイミングで芦屋に帰ってきてもらえたらいい。そのためには18歳までの学校生活の中などで、芦屋に住んでてよかったと思ってもらうことが大切だと思います。そう思ってもらえるために、最高の学びができる環境をつくりたい。小さい時の経験を豊かにしてもらいたいと思ってます」

（写真は24年度予算案について説明する高島市長）